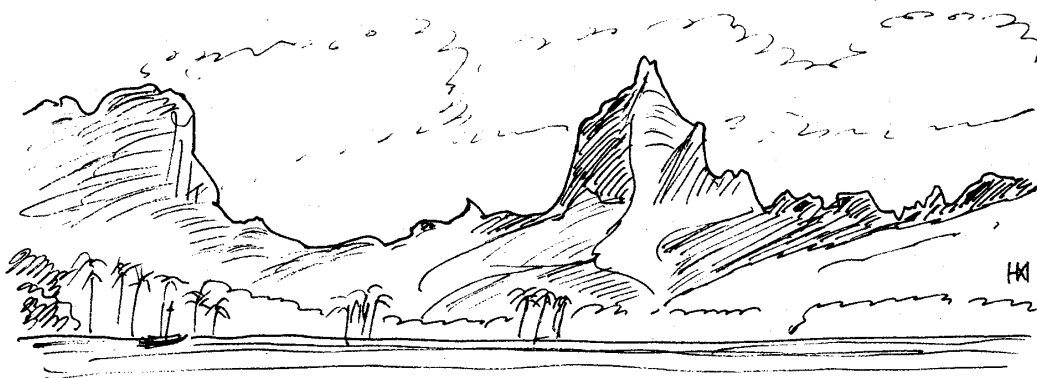


随想



九州大島嶼県の近況

長嶋 俊介

94年初夏、長崎・鹿児島・沖縄の九州大島嶼県を訪れた。

ハウステンボスでの学会では、一代で業を成した神近社長が知事も前にし、経済と環境両立、本物追求と文化・交流、ハイテク未来都市構想について講演。親水環境は得心がいく。別荘島にはA/Gの花名の通り、奥が漁師家、角が大屋敷と干拓地物語を採用。キリシタン島頭島まで飛び、未訪問島、湘南にも由来する江ノ島へ。若者少なく寂しい。ダイケアー施設がある。老韓国人医が単身東京からの御陰。松食い虫防除の人達と昼が一緒だったが、旅館なのに魚なくカレー。特産味噌は麦黒を使い旨味あり。

平島は玉石垣、一周道路、本格料理、捕鯨発祥の地と威勢がよい。市場により遠いのに漁業が盛んで若者も多い。気っ風よい女将は自動車を貸す。旧良港南風泊は絶景。島研究仲間の名刺とも出会う。島は離れるほど、活気あるほど魅力が増す。

炭坑列島に10年ぶりに行く。皆明るい。人口15分の1になった崎戸町は記念館と塩、ヒラメ養殖、ペーロン置く県立公園。大島には

炭住銭湯家屋が残るがトライアスロン島へ。寺島は漁協が島興しの核、本土と架橋工事中。平島からの元捕鯨島松島は大型石炭発電島へ。唯一の現役石炭島池島は狭くても車社会。最遠なのに佐世保からの日帰り買い物客で賑わう。服装もよい。夜はミサも行っていた。ただし住居壁色メンテ管理に問題ありだった。昨年高島で「石炭を魚に変えて島興し」と大



地割制は二、三男にもやさしい制度

(渡名喜島)

型ハウス園芸を、伊王島ではリゾート・養殖を見た。無人島20年の端島は台風災害後護岸修復で故郷保存が図られていた。

沖繩には世界島嶼会議報告で行く。県知事は島嶼研究所構想を打ち出している。北大東島で深海から上げた海水淡水化装置を見た。その綺麗な冷水がプールに入る中泳いだが壮快。八丈・新島の古老は、開拓者玉置は沖繩人を大切にしろと諭したと語る。隆起裾礁で港不便、水捌け悪くすぐに洪水となる。盆地グアノの北大東には工場跡地と貯水池などに利用され始めた大穴がある。ラサ島は射爆場地割制の土地で作るキビ大人気の渡名喜島



国内唯一のリン鉱石工場跡地（北大東島）

の前にも射爆島があるが、日曜出漁し女は貝とりにと活用していた。久米島には鳥島神社を奉る硫黄島鳥集落があるが入会権訴訟は敗訴した。奥のハテの浜にも上がったが、焼却施設と見えたそれは射撃目標物であった。洗濯岩美しい浜に相応しくないオブジェであった。

種子島の無人島馬毛島は元国有地の私有地、広く問題を未来にも抱えていた。錦江湾新島は17人だが、護岸波消しブロックで全周守られていた。その桜島からの種子島への大正移民は、桜島楽園開拓集落Ⅱ桜園を作っていた。嬉しいことに島嶼県鹿児島は、二法下の

島振興を島課長研修などで26年にも亘り繋いでいた。三島・十島行は台風と航海日程で駄目、厳自然と距離問題に飛行場復活の朗報があった。

